

④日本型州構想シリーズ～その2 「関西州」「東海州」「北陸州」

西日本の拠点都市が並ぶ、太平洋ベルト地帯とも呼ばれる主力産業を抱えるこれらの州は、日本の背骨にも近い。

関西州

関西州（滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山）は首都圏と並ぶ国土2眼レフの一角を占める。ポテンシャルの高い州。人口規模で約2000万人、域内生産額で85兆円。しかも伝統のある京都、奈良、大阪、堺、神戸という都市があり、観光資源にも恵まれた州だ。海外からの観光客ももっとも訪れたい州であり、日本観光の顔である。

州都は大阪が有力だが、もし大阪都市州として独立するなら、そこから切り離された関西州の州都は京都になる可能性が高い。

京都は独特の存在感を保つ都市。関西州のままで州都が大阪の場合、神戸と一体化するかもしれないが、この圏域で潤った利益を州内に分配することで全体が潤う。そうしたなか和歌山や滋賀は更に売りを強める方策がある。

地域名	人口(万人)	域内総生産(兆円)	県都(市)
関西州	2,058	85.5	
滋賀	141	6.5	大津
京都	258	10.7	京都
大阪	888	40.0	大阪
兵庫	546	21.3	神戸
奈良	133	3.6	奈良
和歌山	92	3.4	和歌山

この州は一番潜在的な可能性を秘めている。2025大阪万博があるが、ここで最先端産業の売りができると州内はもちろん、日本、世界に大きなインパクトをもたらす。バイオや健康・医療産業、ものづくり、観光といった産業の強みがより増す。企業や研究機関、大学、文化施設などの集積も多く、日本の「2

眼レフ国家構造」の1極を担うにふさわしい。

これまでは大阪、神戸、堺、京都などの政令市を擁しながらバラバラ感があり、関西は東京への人口流出が最も多い地域でもあった。しかし、それぞれを特別市とし吸引力を高めネットワークでスクラムを組むなら、「関西の地盤沈下」と言われた時代は終わる。

関西州の企業本社は関東の34%に比べ18%程度だが、大阪、東京の2都構想を追求すればで本社が流入してこよう。産業の特徴として首都圏では情報通信業(50%)、不動産業(40%)比率が高いが、関西州は製造業の本社比率が高い(21%)。また医療関連産業の研究拠点や生産拠点が集積しており、医薬品の生産額では全国の約20%、医療機器は約10%、医療外製品では約25%を占めている。これらをさらに伸ばしていけば経済力は高まる。

今後、リニア中央新幹線が早期に大阪まで開通し、スーパー・メガリージョンが形成されれば、州構想の実現で国からの権限、財源の大幅移譲があったことを機とし、関西州はそのポテンシャルを活かし、機動的に税制の優遇や規制緩和を行うなど、独自の地域圏の

経済政策を行っていけば、繁栄の一つの極となっていく。電子部品などモノとインバウンド（訪日外国人）消費のという「2つの輸出」で現在はけん引を發揮しているが、京阪神の地理的なサイズはシリコンバレー（サンフランシスコからサンノゼ・パロアルトまで）とほぼ面積と同じ。バラバラではなく、関西州として京阪神全体で産官学の動きに横串を刺していくなら、大きな成長力を持つことができよう。



京大、阪大、神戸大と有数の国立大と関関同立など有名私学も多い。この強みが関西州の強みとなる。さいわい行政の関係でも関西広域連合の実績があり、広域州行政の素地ができています。こうした実績を基礎に州政府を創っていくならキャッチアップは比較的早い。

そして近い将来の切り札が、2027年予定のリニアモーターカーの開通でしょう。東京と名古屋が現在の半分、40分でつながる。この時間距離の短縮に伴う経済効果、ヒト、モノ、カネの流れへの影響は計り知れないものがあります。オランダ、オーストラリアを超える域内総生産を有する州になっていこう。

大阪都市州を副首都にという話に加え、中部州も副首都として首都機能の一部移転を行うべきだという話が出てくるかもしれません。地理的に日本の真ん中に位置するこの州の発展可能性は無限大に近い。

東海州

地理的に日本の真ん中に位置する東海州（岐阜、静岡、愛知、三重）は人口約1500万人、域内生産額70兆円を超える豊かな地域。中でも名古屋は横浜、大阪に次ぐビック都市で州都となる可能性が高い。

この州は交通インフラが充実している。東海道新幹線など鉄道網だけでなく、高速道路網の充実。2027年のリニア新幹線（名古屋—東京間）の開通、その10年後、2037年大阪まで繋がると、首都圏、東海圏、関西圏が1時間少しで移動が可能となる。太平洋ベルト地帯に約7000万人の巨大経済圏（スーパーメガリージョン）が誕生する可能性が高い。

この移動時間の短縮に伴う経済効果、ヒト、モノ、カネの流れへの影響は計り知れない。名古屋大などを中心に大病院、金融機関、サービス業などがさらに集積していこう。しかも豊田にトヨタ自動車、常滑に中部国際空港があり、名古屋ブランドを売りに東海州はより経済力を高めていくものと思われる。

東海州			
地域名	人口(万人)	域内総生産(兆円)	県都(市)
東海州	1,495	73.3	
岐阜	198	7.7	岐阜
静岡	364	17.2	静岡
愛知	755	40.2	名古屋
三重	178	8.2	津

州内には、トヨタ、ホンダ、スズキなど日本を牽引する自動車産業の本拠地があり、日本のモノづくりの中心地東海州は日本の航空機産業の最大集積地だ。航空機・部品の全国生産額の5割以上を占める。次世代自動車や航空機など新分野の開拓も着実に進んでいる。

トヨタグループの存在が大きく、次世代に向けても遠隔型自動運転システムも実験が進み、人工知能(AI)を活用した次世代自動車産業の集積地になる可能性が高い。

スマートホンのカメラレンズ用の金型製作などに使われる精密加工機や3Dプリンター技術を応用した積層造形や装置など最先端のモノづくりが大きな力となっていく。

愛知は肥沃な濃尾平野が農業を育み、現在でも農業生産額は全国7位であり、また有松紋や瀬戸物などは全国でも名高い特産品も多い。安土桃山時代に織田信長が全国から職人を集め競わせ「天下一」の称号を与えた歴史の影響も強い。



岐阜は豊かな森林資源を生かした飛騨の木工家具や民芸品、美濃和紙。刃物製品、茶の湯とともに発展した美濃焼など工芸品などが多く海外でも人気が高い。

三重は海山の幸に恵まれ、伊勢えび、松阪牛、的矢カキ、伊勢茶など食の宝庫として名高い。真珠養殖も盛んで「三重ブランド」は世界的にも有名。

静岡はお茶の収穫量で日本一を誇り、温州ミカンの産出額の全国トップクラス。ひな人形など工芸品をつくる職人も多い。浜松は自動車、楽器などの集積度も高く伸びる。

山・川・湖・海など多岐に富んだ自然資源のほか、全国的に有名な下呂温泉や首都圏から多くの観光客の訪れる熱海・伊東・伊豆温泉郷など、各地に多くの温泉地を抱え、豊富な観光資源を生かしながら豊かな地域づくりをめざすことが可能な州だ。

東海州は首都圏との一体化が進むと域内総生産はオランダ、オーストラリアを超えていく。現在は日本のGDPの15%だが、東海州として一体化すれば、20%近くまで伸びよう。

北陸州

日本海側に面する北陸州(新潟、富山、石川、福井)は人口500万人、域内生産額約20兆円の州。今後、中国、ロシアなどこれから伸びていく大市場に近接しているだけに州のまとまりを強め海外貿易を盛んにすると発展する。

州都は地理的に州の中心になる金沢になる可能性が高い。新潟も政令市であり候補だが、地理的に北陸州をまとめる位置にない。むしろ独自性を生かすことで発展する。

北陸州			
地域名	人口(万人)	域内総生産(兆円)	県都(市)
北陸州	515	21.3	
新潟	222	8.9	新潟
富山	104	4.5	富山
石川	113	4.6	金沢
福井	76	3.3	福井

州内には既に上越新幹線、北陸新幹線、上越自動車道などが開通しており高速移動時代の有利性をもつ地域となっている。この利点を生かしながら発展していくことだ。日本海国土軸の中核で東京、名古屋、大阪の三大都市圏から 300km 圏内に位置する

世界に開かれた日本海側における交流中枢拠点として国際競争力のある産業を育成し、交流機能を強化していくと、東アジアとわが国を結ぶ「扇の要」、日本海のゲートウェイの役割を果たす。

特色ある観光資源を活かしたインバウンド観光の推進や技術・ノウハウ・特性を活かした産業の振興で伸びていくことが期待される。5年前に開業した北陸新幹線の開業効果は大きく、開業1年目で新幹線の利用者数は926万人と当初の予想を大幅に上回り、経済波及効果も650億円を超えている。

金沢ブランドという認知度、知名度が高く、優秀かつ意欲的な創業者が多い。首都圏に比べて地価・人件費等が安いこと、インフラ整備や金沢・加賀・能登といったブランドを持っており、比較的優秀な人材の確保ができること、自然環境の良さや安価な土地、伝統工芸王国なので、いい作品が多いこと、繊維産地との連携が取れていることなどが強み。

日本三名園の一つである「兼六園」をはじめ、ひがし茶屋街など観光名所の豊富なのも強み。電子部品や生産用機械、情報通信機器、繊維産業などが活発なものも特徴だ。

この先、北陸新幹線が福井を経由し関西州につながると、首都圏、関西圏の両方からプラスの影響を受け伸びていこうこの長い間、福井など交通の要衝から外れていたこの圏域は一気にそのハンディが取り除かれ、成長していくことが見込まれる。



州内には多様な産業があり、農業立国である新潟は洋食器や工具等の金属製品でも有名。富山は日本海側最大の工業集積地として知られ、アルミ工業が盛んであり、古くから「越中富山の菓売り」というキャッチフレーズがあり製菓業も盛んである。

この地域でとれる米、スイカ、ぶどう、なし、チェーリップといった農産物が、輸送技術

の高度化により高級農産物としてロシアや中国、あるいは遠く欧米にまで高い価格で売れるようになる可能性もある。雇用の拡大と税収への貢献も大きくなる。

日本と北東アジアとを結ぶ「扇の要」に位置していることから、今後北陸新幹線の延伸や東海北陸自動車道の四車線化、中部縦貫自動車道、舞鶴若狭自動車道の整備が進めば、ゲートウェイとしての役割が強まる。中国、ロシア、韓国などの玄関口となる新潟港を国際港拠点として拡大すれば、この地域はさらに強みを増す。